関西
スーパー
マーケット

社会的役割、改めて認識 人々の健康と福祉に努める

▲福谷耕治社長

コロナ禍にあって、スーパーマーケットは食のインフラを支える重要な社会的役割を担っている。「そのことを改めて認識させられた」と福谷耕治社長。「地域の方々にとって身近な存在であるがゆえに、社会におけるサスティナブル経営という課題を、より求められている業態ではないだろうか」。

同社はSDGs 17の目標のうち、サスティナブル経営の観点から、特に7つを重点目標として挙げ取り組んでいる。環境面においては森林や棚田の保全活動、気候変動への対応ではLED照明の全店導入や冷蔵・冷凍設備でのCO_2触媒の導入、省資源ではノントレー商品の取扱いやリサイクルの推進。また、社会貢献活動としてフードバンクを通じた食品の提供、移動スーパー「とくし丸」事業での買物弱者への対応など「すべての人々の健康と福祉に日々努めている」。

▲移動スーパー「とくし丸」

より具体的に、全社を挙げて取り組んでいる課題の1つが食品ロスの削減だ。「適正な発注と在庫管理はもちろん、食品ロスに関する情報発信を通じ、日々の業務だけでなく日常生活においても従業員の皆さんの意識が高まり、社内の機運が醸成されているのを感じる」。

店内ではポスターなどを通し、同社のSDGsの取組みを地域の買物客に向けてより分かりやすく伝えている。以前から「ちょうどいいね」という少量パック商品の品揃えを充実させ、必要な容量だけを買いやすく提供してきた。今年2月には食品ロス削減につながる予約販売を強化するため、農林水産省が進める「恵方巻きのロス削減プロジェクト」に参画。このほか、期限が近いものの味や品質には問題のない商品を販売する「お買物上手コーナー」を設け、エシカル消費への協力を仰いでいる。

「このように従業員を始め地域の方々に、より積極的にご理解いただく取り組みは始まったばかりだが、これまでも経営理念の『普段の食生活をより豊かにすることにより、地域のお客様から信頼を得、社会に貢献する』にのっとって活動してきた。それらをより時代に即した内容へと見直し、愚直に取り組むことによって、われわれが目指すトータルソリューション型スーパーマーケットへ近づけるのではないかと考えている」。